2008年7月25日　聖路加　PPの会

By　戸ヶ里

Snyder CR, Lopez SJ. Positive Psychology: the scientific and practical explorations of human strengths. Sage Publications, Thousand Oaks, pp445-472.

THE ME/WE BALANCE BUILDING BETTER COMMUNITIES

Introduction

- Where we are going: From ME to WE to US
  - 本章では２つの人間として生きる上での動機
  - ひとつは個人主義的な視点
  - もうひとつは集産主義(collectivism)的な視点
    - 集産主義：土地・工場・鉄道・鉱山などの重要な生産手段を国有として政府の管理下に集中し、統制すべきであるという主義。社会主義、共産主義、ナチズムなどの全体主義政権下で採用された。また、発展途上国においても、国威発揚や経済力弱体の克服手段として、鉱山などにおいて限定的に採用されている事が多い(Wikipediaより)
- Individualism: The psychology of ME
  - 本節では、まずアメリカの徹底した個人主義の歴史に触れ、個人主義の特徴を明らかにしていく

A Brief History of American Individualism

- 19世紀のフランスの社会学者トクヴィル(Tocqueville A)著「アメリカの民主政治」の出版以降、アメリカは徹底した個人主義の地として知られるようになる
  - 孤立する自己の存在を考える習慣、自身の運命は自身の手に握られているという想像
- 自由と平等の精神にリンク
- 1960年代から90年代の間に、徹底した個人主義が「Me Generation」に変容

Emphases in Individualism

個人主義		集産主義
Core Emphases		
独立		従属
独自性or 目立ちたがり		画一性or調和の欲求
分析単位は自己／個人		分析単位は他者／集団
Secondary Emphases		
自己に対する目標		他者／集団に対する目標
自己の成功		集団の成功
自己からの満足		調和による満足
個人的な報酬		相互の寛容・公正
Cost/Benefit分析を行う		無条件の関係性
自発性		義務
短期間の思考		長期間の思考
非公式の相互関係		公式の相互関係

Personal Examples of Individualism

- 著者は幼少より個人主義的価値観
  - 他人に助けを求めるのは良くない選択肢
  - しかし大学院生時代のある一件をきっかけにそんなポリシーはやめた
  - 気づけば周りにはいろいろ助けてくれる人がいることに気づいた
- という話

The Need for Uniqueness

- 特別性(specialness)の感覚を産み出す個人主義的な目標の探究を「Need for Uniqueness」と呼ぶ
- この「need」は普遍的で、人々は他者との相違の程度を維持し続ける
- 1970年代の研究では、アメリカ人の中にも、こうした高いuniquenessを希求し続ける人とそうでない人がいることを明らかにした

Encoding of Similarity Information

- Snyder and Fromkin(1980)：人は他者との様々な類似の程度によるその受容可能性を評価している
- 図18.2：他者との類似の程度と、重要の程度の関係性…moderateとhighレベルの類似性の時、もっとも受け入れやすい
- 極端に似ていない、あるいは極端に似ていると、人々は受け入れ難く感じてしまう

The Need for Uniqueness 2

Emotional and Behavioral Reactions to Similarity Information

- 図18.3：
  - 類似度が高くなるほど感情がポジティブになるが、一定の類似度を超えるとネガティブに戻る
- 図18.4：
  - 類似度が高くなると感情(＋)に加えて、行動に変化を起こす必要度が低くなる
  - 類似度が低いと、他者により類似するように行動を変化させる→行動度が高まる
  - 類似度が極めて高いと他者との類似度が下がるように行動を起こす
- 多くは「Me」と「We」のバランスを持つ
  - 極端な独自性への欲求は、他者との関係の不全さや社会的な排除により生じるかもしれず、極端な類似性の欲求は対人関係におけるその人のパワーの喪失により生じているかもしれない

Development of the Need for Uniqueness Scale

- Snyder & Fromkin(1977)“The need for Uniqueness Scale”の開発（Appendix）
  - 数カ国語に翻訳されている
  - 独自性の欲求が強いと高いスコアに
  - 必要性が高いだけでなく、それが行動として現れる

Uniqueness Attributes

- 非日常的行動は社会に許可されず拒否されるが、ルールにのっとった行動は拒絶されない
- どの社会でも自らの違いを示す許容された属性がある…Uniqueness attribute
  - 数ある属性（身体的、物質的、情報的、経験的etc）があり価値がある。つまり参照グループとの差異のあるグループの人間であることを示すものだから。

Names as Uniqueness Attributes

- 自分の名前はself-identityのもっとも重要なもの
- Snyderら（1977）は、高い独自性の欲求を持つ人は自分の名前を示したがるはずという仮説
  - The need for Uniqueness Scaleの回答と同時に記名し、記名欄の字の大きさを検討（スペルの長さはコントロールした）
- Snyder（1980）は女子大生を対象とした研究で、高い独自性欲求を持つ人は、統計的に珍しい名前であることを示した

Performances as Uniqueness Attribute 1

- 社会におけるパフォーマンスは、uniqueness attributesとして役割を果たす
- 3つのタイプに分けられる
- 第1：individualistic normal competition（別名ゲーム遊び、図18.5）
  - 競争のルールのグループにいる
  - そのルールの下プレイし、勝者がでる（たとえば車をたくさん売る、良い成績を取るetc）
  - その勝者はその後また別のグループに入らねばならない・・・さらに競争は激化している
  - 西欧の資本主義的、個人主義的社会は基本的にこの「normal competition」

Performances as Uniqueness Attribute 2

- 第2：Individualistic successful differentiation(別名ゲームの変化、図18.6)
  - ある人が新しい考えやゲーム方法を思いつき、新しい考えを取り入れるためにそれまでのものを中断
  - 成功すればその人に仲間ができ、対抗グループも追従する
  - どのアイデアも、できるだけ初期の時点で古いモデルや考え方を中断できた人の努力が反映する
  - 電球の発明、DNAの発見、など

Performances as Uniqueness Attribute 3

- 第3：Individualistic deviance(別名あなたはゲームで遊べない　図18.7)
  - あるグループの権力者が、ある人を排斥
  - たとえその人に多少なりと追従者がいても、大多数の人に対して何の影響力ももたない部外者であると歴史が示すことになる
  - こういった人は何の影響力ももたず人々の記憶の外に追いやられるので歴史的な実例を示すことはできない

Collectivism:
The Psychology of WE

- 以降、集産主義（collectivism）の歴史と、特徴点について述べていく

A Historical Comment on Collectivism: We came together out of necessity

- 数千年前の人類は狩猟・採集を生業とし、生存のために集団で目的や興味関心を共有する利点を見出す
- 集団は、所属感覚の寄与、アイデンティティ形成、ルールをつくる
- お互いに助け合って世話をし合い、子育てを共有する
- 社会心理学者Elliot Aronson(2003)がいうように人類が「social animal」であるのなら現代も、狩猟採集の時代もかわらない
- Baumeister (1995)やForsysth(1999, 2000)は、人類は目標を共有する社会的単位に合流してはじめて繁栄できると論じている

Emphases in Collectivism

- Fig18.1
- 依存：人々はグループの期待により添い、グループの福祉を考え、所属するグループにまさに依存することになる
- 調和の欲求：Oyserman(2002)は「集産主義の中心的な要素は、グループの結束と相互に義務を負った個人である」を書いた。
  - 集産主義は、本来in-groupの動きである社会的アプローチであり、out-groupとは異なる(Oyserman 1993)
- 分析単位が集団：人々は自身を、より大きく重要な完全体の一部と考える。
  - 構成要素より全体

Demographic Related to Collectivism

- Positive psychologistたちは今後将来、collectivismについて考えねばならない
  - 世界中で貧富の格差の拡大について、低い社会階層の人の方が高い階層よりもその視点がよりcollectivistに近いことが示された(Daab 1991, Kohn 1969, Marjoribanks 1991)
  - 歳をとるにつれて、よりcollectivistになるという報告(Gudykunst 1993, Noricks 1987)

Me/We Balance: The positive Psychology of US

Both the Individualistic and the collectiveistic perspectives are viable

- 西欧諸国が個人主義で、東アジアが集産主義であるとする極論があるが、このアプローチは必ずしも科学的ではなく、民族的特性というわけではない
- Oysermanら(2002)はアメリカ人は高い個人主義性を持っているが、他の国と比較してそれほど低い集産主義性を持っているわけではないと報告
- 個人主義と集産主義は切り分けることができない
  - Vandello(1999)は米国内でも、北東部、中西部、南部、西部で個人主義の程度が大きく異なることを示した
  - 個人主義と集産主義の程度における世代的な違いがある(Matsumoto et al. 1996)

Both the Individualistic and the collectiveistic perspectives are viable

- 個人主義の傾向は集産主義に寄与するかもしれない；
  - 例えば、強い自己効力感覚が社会の集団的な効力感に寄与するという報告を考慮する必要がある
- Oyserman(2002)は、個人主義と集産主義を別々のカテゴリとして(対峙するものでなく)落ち着いて眺め、文化理解においては、動的な(いつ、どこで、なぜこうした精神性が発動されるかという)アプローチを取るべきと提案
- 幸福で、生産的な人生の特徴のひとつは、視点と行動におけるバランス感覚
- この問題へのポジティブ心理学アプローチは、「ME」と「WE」の特徴を同等視すること
  - 図18.8⇒ME/WEの視点は、人が人とグループの両方に注目することを可能にする
  - 高い希望を持つ人が生活し他の人とかかわりを持つ際の特徴とされる(Snyder 1994, 2000, 2000b)
  - 高い希望を持つ人は、子供時代には他者の重要性を学び、他人に対する思いやりが個人的な目標に向けて果たす役割が大きいことを学ぶ
  - 高い希望をいだく人は、MEのゴールについて考えるのと同時に他の人々のWEのゴールを想像することができる
- MeとWeはお互いに関連しあう
- 高い希望を持つ人はMeのゴールとWeのゴールの両方を自然と持ち合わせる

Suggestion for We people

- 個人主義者と集産主義者の傾向について知るべき
- 個人主義者と集産主義者がより効果的に対話することができるかのTriandisら(1988)の研究
  - 集産主義者は個人主義者と過度に競う傾向がある
  - 個人主義者はグループでのメンバーシップよりも個人的な業績にステータスの基礎を置くという理解が大事
  - 特に最近の成果ほど強い
  - 集産主義者はグループの他のメンバーとの関係を当然と見なし、グループ内での寄与に対しては感謝したりほめたりしない
  - 従って人間関係の「社会的な潤滑油」として集産主義者は、個人主義者はそうした賞賛をかなり必要とすることを知るべき

Suggestion for Me People

- 個人主義者はしばしば集産主義者を「遅れた人」であり、競争力を欠くと見なす
- 集産主義者のステータスの感覚は個人的な業績ではなくグループメンバーシップから得ている
- 個人主義者は、集産主義者が、グループで他のメンバーとの自分との関係を当然と見なす傾向があるので他者をほめる必要がないと理解しなければならない
- 従って、自分への感謝を期待する個人主義者は、集産主義者は決して社会的な好意が不足していると解釈しないことを学ぶべき
- 問題解決が必要な時に、集産主義者はグループレベルで行われるが個人主義者は1対1の協議を望む
- 個人主義者は、集産主義者が対人関係の調和を望んでいて、極力衝突状況を避けようとしていることを理解すべき
- 個人主義者は衝突を、他の問題に移るよう空気を換える有益な方法とみなすことができるが、集産主義者は衝突の後それをとりなそうとすることに気がつくべき
- 同様に、個人主義者は、「なぜ？」を繰り返して、集産主義者のポジションを決定させ、隅に追いやることはすべきでない
- さらに、衝突が避けられないときは、可能である時は常に個人主義者は集産主義者のプライドを保てるように手助けをすべきである

Closing Thought

- 歴史家が、文化間の大衝突の間の平和は異例の期間とみなす傾向がある事実の皮肉について考えよ
- 我々は、過去の戦争により個人主義者と集産主義者が理解しお互いうまくやっていく難題をどれだけ解決できたか
- 米国市民にとってここには非常に重要な学ぶべき点がある
- つまり個人主義者の視点を持つアメリカ人は、自分たちの見解が世界中で共有されないことに気がつかなければならない
- 地球上65億人の70%以上の人々が人間関係において集産主義の見方をすることは概算されている
- それは約45億人の集産主義者と20億人の個人主義者である。集産主義者の人が多い国では個人主義のアメリカ人はその少数である

Closing Thought 続き

- テレコミュニケーションテクノロジーの急速な進化は地球上のさまざまな民族に関する意識を高めたグローバリゼーションをもたらした
- 我々の将来は、一緒に協力し、来る自発性にかかるであろう。
- あまりにも多くの人々が自身の個人主義を追求して行動し、人類のための利点を生産したが、共有された文化を築き、共に生きていく機会を逃している
- Baumeister(2005)が著書「文化的な動物」中で説得力ある議論をした時、社会が効果的に機能するため道徳的な（moral）ガイドラインを共有する必要性を述べた
- 将来のそうしたmoralityの共有は、人々の利己心による逆効果を抑制するであろう
- Moralityは、文化そのものが極端な個性に対してその優位性を主張する方法として役立つかもしれない
- 個人主義と集産主義　ー「one」と「many」のニーズのバランスはある先端の上で平衡が保たれる
- そのようなものとして、「USのポジティブ心理学」がすぐそこにあるかもしれない